

マンスリーレポート

11月の県内経済は、生産活動等が厳しい状況にあるものの、全体では持ち直しの動きが続いている。

1. 平成24年11月の県内経済

項目	コメント	景況判断	
		変化方向	水準
県内経済の景況	県内経済は、生産活動が前年を下回る水準で推移しているものの、全体では公共投資や消費動向を中心に持ち直しの動きが続いている。	⇒	
消費動向	大型小売店販売額は、衣料品および飲食料品を中心に前年を上回り、14ヵ月連続で前年比で増加した。また、新車登録台数も、14ヵ月連続で前年を上回った。	⇒	
公共投資	公共工事前払保証取扱は、件数が2ヵ月ぶりで前年を下回ったが、請負金額と保証金額は16ヵ月連続で前年を上回った。	⇒	
設備投資	民間・非居住用建築着工は、棟数および工事費予定額、床面積が2ヵ月連続でそれぞれ前年を上回った。	↗	
住宅投資	新設住宅着工戸数は、持家および貸家、分譲がそれぞれ3ヵ月連続で前年を上回ったことから、合計でも3ヵ月連続で前年を上回った。	⇒	
生産活動	鉱工業生産指数は、2ヵ月連続で前月を下回り、5ヵ月連続で前年を下回った。	⇒	
雇用動向	有効求人倍率は、季節調整値で前月を上回り、原数値で前年を上回った。一方、雇用保険受給者実人員は震災による影響で高水準だった前年同月を下回った。	⇒	

注：「変化方向」は前月と比較した現在における景況の変化方向（↗：改善、⇒：不変、↘：悪化）、「水準」は現在における景況の水準をそれぞれ示す。「変化方向」は当月と前月における3ヵ月加重移動平均の前年同期比の比較、「水準」は当月の3ヵ月加重移動平均値と過去5年間の平均値の比較により、それぞれ判断している。ただし、「変化方向」が改善または悪化の場合でも、「水準」が変わらない場合もある。なお、公共投資および設備投資は6ヵ月加重移動平均値による判断、民間・非居住用建築着工および鉱工業生産指数は10月データ。

〈天気図（水準）の意味〉

晴れ	晴れ一部曇り	曇り	曇り一部雨	雨

良 い

悪 い



2. 県内経済動向の概要

(1) 前年同月比

(単位：%)

	項 目	前 年 同 月 比					
		24年6月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月
消費動向	大型小売店販売額（全店舗）	5.4	2.3	6.6	6.2	3.0	8.2
	乗用車新車登録台数	65.4	66.5	38.6	6.0	4.0	6.5
公共投資	公共工事前払保証取扱保証請負金額	226.9	180.2	194.3	98.8	128.0	82.0
設備投資	建設着工工事費予定額（民間・非居住用）	110.1	148.2	▲ 49.0	172.0	123.5	—
住宅投資	新設住宅着工戸数	100.4	41.7	▲ 23.2	76.3	90.0	43.9
生産活動	鉱工業生産指数（総合） ^{注1}	▲ 1.0	▲ 1.9	▲ 5.4	▲ 7.8	▲ 5.3	—
雇用動向	有効求人倍率（パート含む） ^{注1}	0.38	0.38	0.40	0.37	0.40	0.44
	雇用保険受給者実人員	▲ 65.4	▲ 62.4	▲ 60.5	▲ 59.1	▲ 54.7	▲ 50.7

注1 原指数

(2) 前月比

(単位：%)

	項 目	前 月 比					
		24年6月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月
消費動向	大型小売店販売額（全店舗）	▲ 3.6	6.0	1.1	▲ 9.7	5.5	2.3
	乗用車新車登録台数	22.4	5.7	▲ 28.3	12.6	▲ 12.6	7.0
公共投資	公共工事前払保証取扱保証請負金額	35.6	15.0	36.9	▲ 12.0	0.7	▲ 31.9
設備投資	建設着工工事費予定額（民間・非居住用）	45.5	▲ 6.0	▲ 38.9	215.1	▲ 2.2	—
住宅投資	新設住宅着工戸数	15.9	▲ 11.9	▲ 9.6	30.4	30.0	▲ 9.3
生産活動	鉱工業生産指数（総合） ^{注2}	▲ 2.6	▲ 3.8	0.0	▲ 0.2	▲ 2.3	—
雇用動向	有効求人倍率（パート含む） ^{注2}	0.04	0.02	0.01	▲ 0.03	0.02	0.07
	雇用保険受給者実人員	▲ 4.0	0.7	▲ 0.5	▲ 8.5	0.4	▲ 5.4

注2 季節調整値

3. 県内経済動向

消費動向

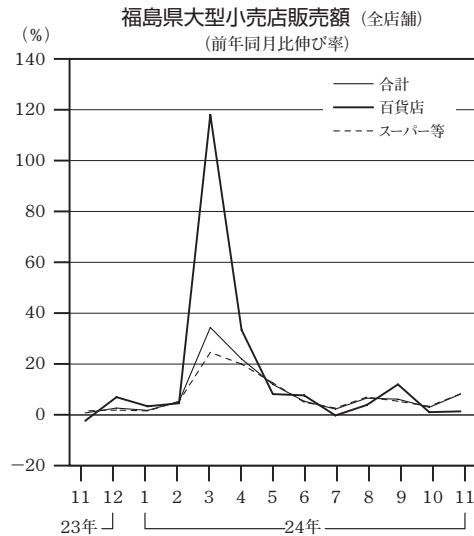
大型小売店 11月の県内大型小売店の販売額（全店舗ベース）は、衣料品、飲食料品とも前年を上回ったことなどから、合計で196億61百万円（前年同月比+8.2%）と14ヵ月連続で前年を上回った。但し、既存店ベースでは、前年比+3.0%となった。（注：既存店とは調査月において当月と前年同月でともに存在した事業所の数値。）

業態別にみると、百貨店は、衣料品、飲食料品とも前年を上回ったことなどから、全店舗ベースの合計では31億32百万円（前年同月比+7.4%）と4ヵ月連続して前年比で増加した。また、既存店ベースでも前年同月比+7.4%となった。

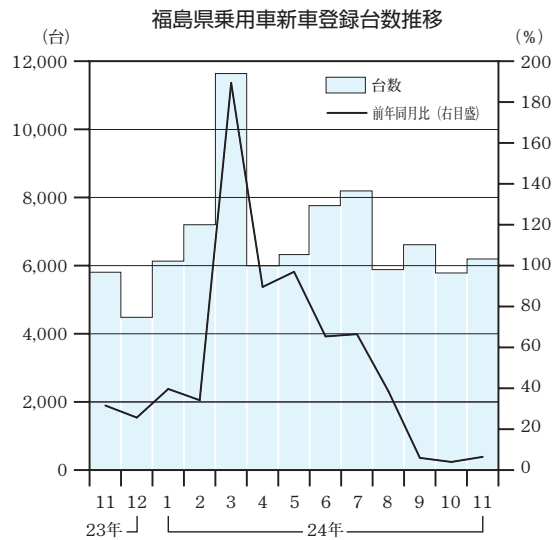
スーパーも、衣料品および飲食料品が前年を上回ったことなどから、全店舗ベースの合計では165億29百万円（同+8.3%）と14ヵ月連続で前年を上回った。また、既存店ベースでは、前年同月比+2.2%となった。

乗用車販売 11月の乗用車新車登録台数（ナンバーベース）は、合計で6,226台（前年同月比+6.5%）となり、14ヵ月連続で前年を上回った。車種別でみると、普通車は1,743台（同△5.0%）と2ヵ月連続で前年を下回ったが、小型車は2,218台（同+11.9%）、軽乗用車は2,265台（同+11.5%）とそれぞれ14ヵ月連続で前年を上回った。

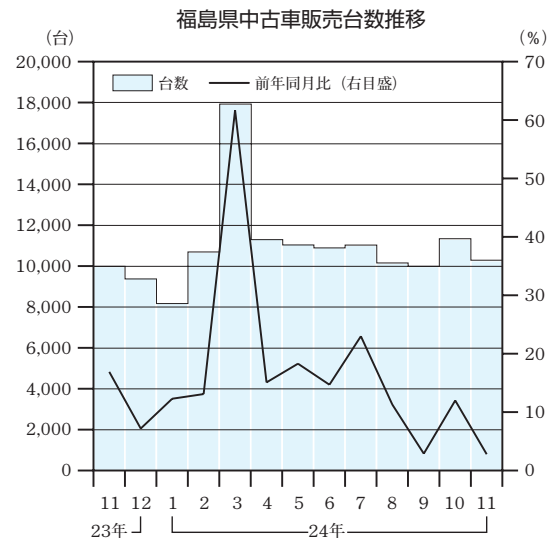
11月の乗用車中古車販売台数（軽自動車は名義変更を含む）は、合計で10,318台（前年同月比+2.8%）と20ヵ月連続で前年を上回った。車種別にみると、普通車は3,169台（同+7.2%）と19ヵ月連続、小型車は3,692台（同+0.03%）と2ヵ月連続、軽乗用車は3,457台（同+1.9%）と20ヵ月連続でそれぞれ前年を上回った。



（資料：経済産業省）



（資料：㈱日本自動車販売協会連合会福島県支部）



（注）軽自動車は名義変更台数含む
資料：㈱日本自動車販売協会連合会 福島支部
㈱全国軽自動車販売協会連合会

消費者物価指数 11月の消費者物価指数は、総合指数（福島市、平成22年=100）でみると、99.2と前月比で△0.3%、前年同月比で△0.2%となった。

費目別にみると、「諸雑費」の103.9（前月比+0.6%）など3費目が前月比で上昇したが、「家具・家事用品」の96.2（同△1.7%）など5費目が前月比で下降した。

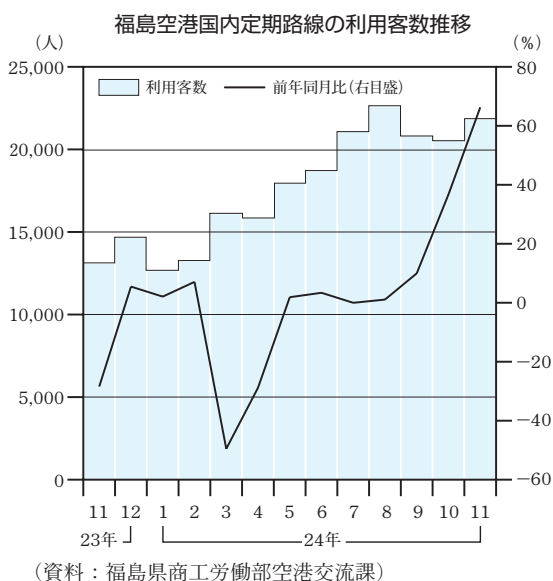
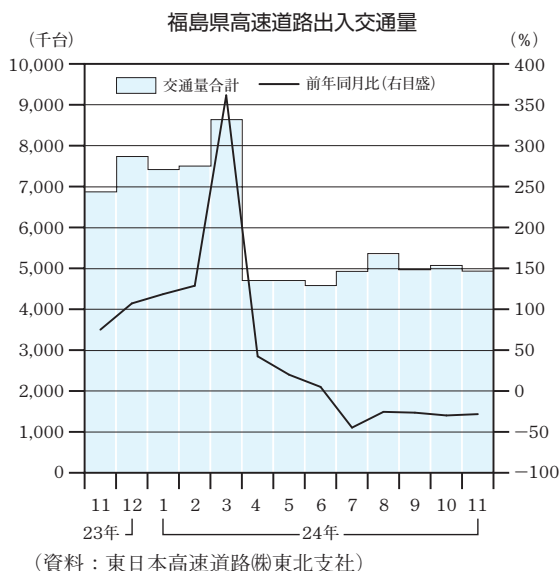
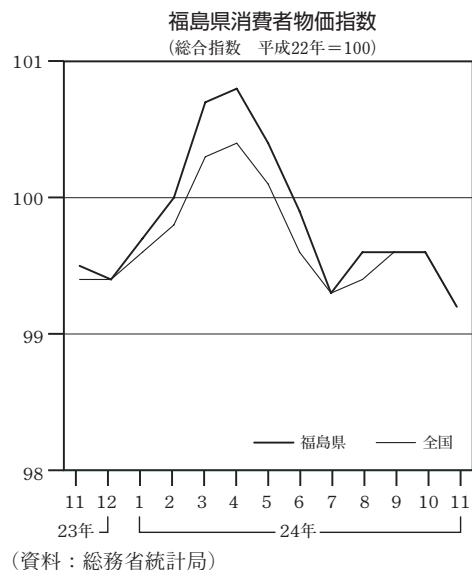
家電量販店 11月の家電量販店の売上高は、冷蔵庫などの白物家電やエアコンの売上が前年を上回ったものの、テレビやDVDプレーヤーなどの落ち込みが大きく、合計では前年並みにとどまった。

ホームセンター 11月のホームセンターの売上高は、医薬品や飲食料品などの日用品を中心に前年を上回り、合計でも前年を10%程度上回った。

旅行 11月の旅行取扱額実績は、海外旅行が前年を下回ったものの、国内旅行が修学旅行などの団体旅行で前年を大きく上回ったため、合計では前年並みの実績を確保した。

高速道路 11月の県内自動車道出入台数は、合計で4,963,309台（前年同月比△28.2%）と5ヵ月連続で前年を下回った。路線別にみると、東北自動車道（白河IC～国見IC）は2,761,103台（同△30.9%）と6ヵ月連続で前年を下回った。一方、磐越自動車道（いわき三和IC～郡山東IC）は441,214台（同△26.2%）、磐越自動車道（磐梯熱海IC～西会津IC）は673,267台（同△35.1%）、常磐自動車道（いわき勿来IC～常磐富岡IC）は1,087,725台（同△15.4%）となり、それぞれ5ヵ月連続で前年を下回った。

福島空港 11月の福島空港国内定期路線の利用状況は、21,929人（前年同月比+66.3%）と前年を上回った。路線別にみると、札幌便は9,032人（同+156.7%）、大阪便は12,897人（同+33.4%）と



なった。

一方、国際定期路線については、ソウル便ならびに上海便とも、全便運休により、利用実績はなかった。

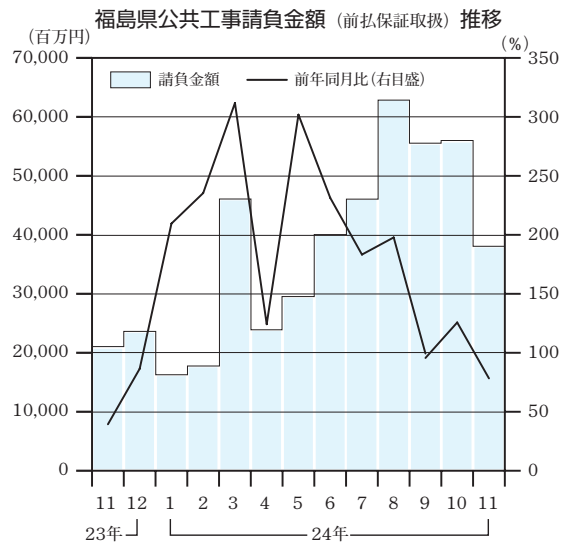
—— 投資 動 向 ——

公共工事 11月の公共工事前払保証取扱は、件数が807件（前年同月比△1.1%）と2ヵ月ぶりで前年を下回った。一方、請負金額は380億78百万円（同+82.0%）、保証金額は183億29百万円（同+91.0%）となり、それぞれ16ヵ月連続で前年を上回った。11月の主な発注者別請負金額をみると、国が40億16百万円（同+97.8%）、県が91億70百万円（同+37.7%）、市町村が245億53百万円（同+140.7%）となった。

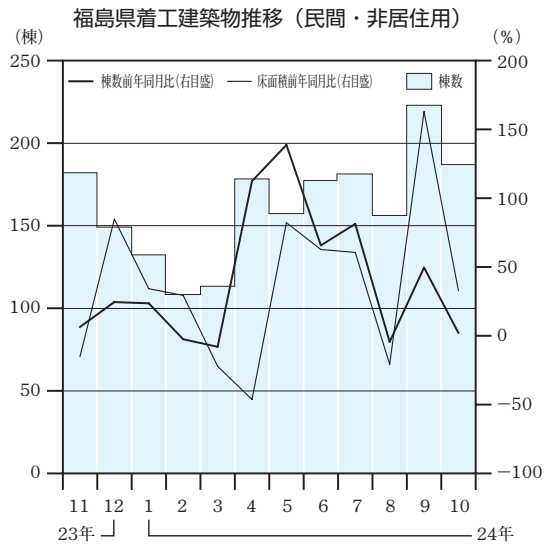
設備投資 10月の建築着工（民間・非居住用）は、棟数が187棟（前年同月比+2.7%）と2ヵ月連続で前年を上回った。また、床面積は108,614㎡（同+33.4%）、工事費予定額は188億97百万円（同+123.5%）となった。

10月の建築物確認件数（計画変更を除く）は1,199件（同+58.6%）と11ヵ月連続で前年を上回った。建築物別にみると、1～3号建物（一定規模以上の建築物が対象）は273件（同+67.5%）と13ヵ月連続で前年を上回った。4号建物（小規模な木造・非木造住宅などが対象）は926件（同+56.2%）と10ヵ月連続で前年を上回った。「構造計算適合性判定合格件数」は23件となり、前月比で6件減少した。

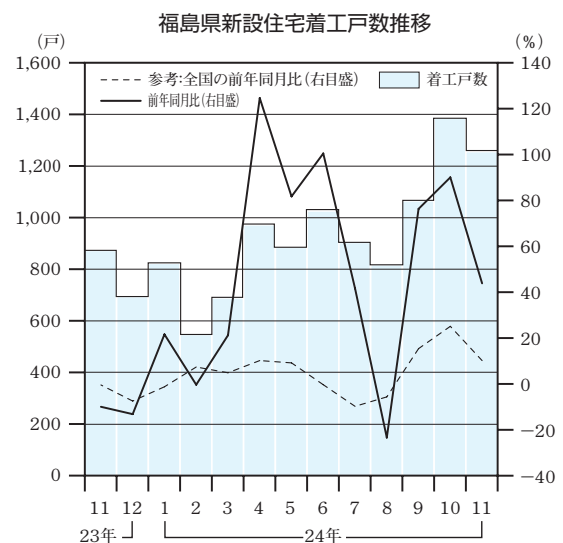
建築物着工の先行指標である10月の建築物申請件数は、1,147件（同+53.1%）と11ヵ月連続で前年を上回った。建築物別にみると、1～3号建物は239件（同+44.8%）と9ヵ月連続で前年を上回った。4号建物は908件（同+55.5%）と11ヵ



(資料：東日本建設業保証(株))



(資料：国土交通省)



(資料：国土交通省)

月連続で前年を上回った。「構造計算適合性判定申請件数」は28件となり、前月から1件増えた。

住宅建設 11月の県内新設住宅着工戸数は、1,256戸（前年同月比+43.9%）と3ヵ月連続で前年を上回った。主な利用関係別にみると、「持家」は665戸（同+18.3%）、「貸家」は522戸（同+89.8%）、「分譲」は67戸（同+91.4%）と3ヵ月連続でそれぞれ前年を上回った。

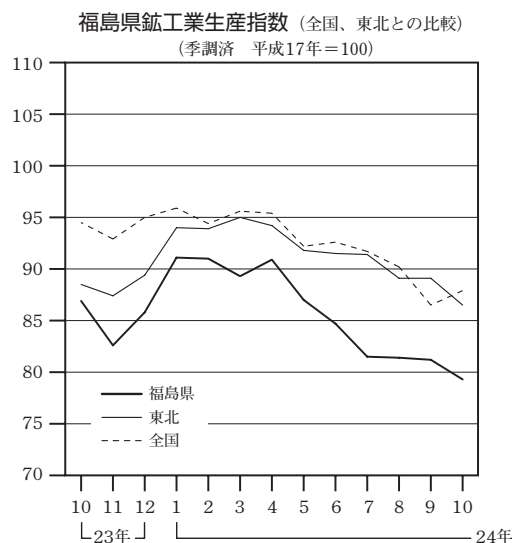
—— 生産活動 ——

鉱工業生産指数 10月の鉱工業生産指数は、79.3（季節調整値）で前月比△2.3%と2ヵ月連続で前月を下回り、原指数は84.4で前年同月比△5.3%と5ヵ月連続で前年を下回った。業種別の季節調整値をみると、「食料品・たばこ工業」（前月比+16.0%）など7業種で上昇し、「情報通信工業」（同△8.6%）など13業種で下降した。

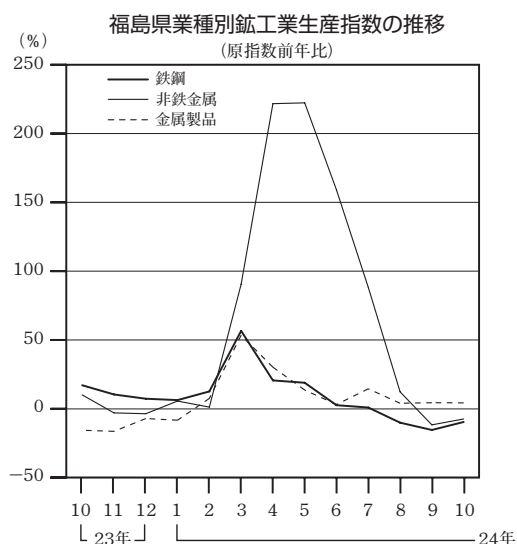
※福島県では、調査対象企業のうち、震災の影響により調査できない約3%の企業の生産額は0として処理している。

化学 11月の食品包装フィルム用合成樹脂の生産は、国内向けがほぼ横ばいで推移したものの、欧州向けが低調であることに加えて、中国の需要が減少傾向にあることから、総体では前年を下回る水準となった。

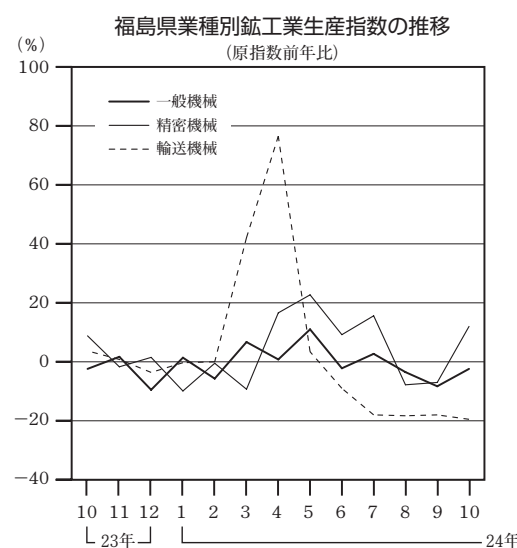
鉄鋼・金属 11月の伸銅品の生産は、自動車向け端子材が前年比で約20%減少した。また、半導体向け電子材が、円高と低調な欧米経済の影響、新興国の製品との競合などから、前年比で約10%減少した。建機用鋳造品は、中国以外のアジア諸国やオーストラリア、アメリカの受注が堅調だったものの、中国の受注が減少したことから、合計でも前年を大きく下回る生産となった。一方、陸船用バルブは、火力発電向けの受注などにより、前



（資料：福島県企画調整部統計調査課）



（資料：福島県企画調整部統計調査課）



（資料：福島県企画調整部統計調査課）

月とほぼ同水準の生産となったが、前年をわずかに下回った。

輸送用機械 11月の铸造品は、トラック向けではインドネシアに一服感が窺われるものの、タイからの受注が堅調だったため、合計では前年並みの生産水準を確保した。また、カーナビおよびカーオーディオも、円高や低調な欧米経済の影響を受けているものの、タイの洪水による影響がみられた前年並みの生産となった。一方、オイルシールは、エコカー補助金打ち切りによる影響などもあり、前年を下回る生産となった。

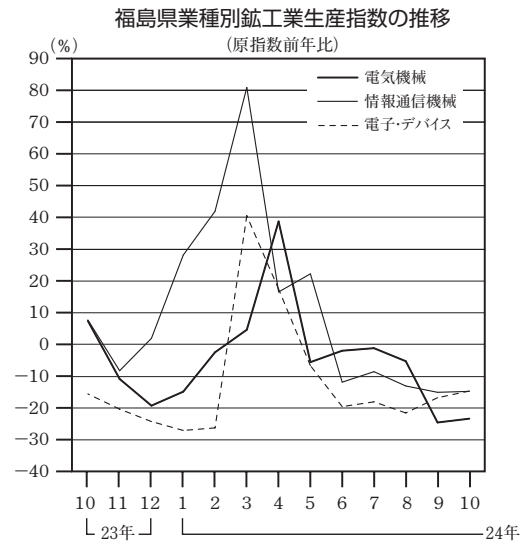
電気機械 11月の自動車向けモーターおよび変圧器は、前年を下回る生産となった。一方、配電盤の生産は、火力発電所向けの需要が一巡した前年を上回る水準となった。

情報通信機械 11月の情報通信機械は、マイクロ波通信機器などの無線通信機器がインドを中心とした海外需要の減少から減産となったが、国内向けモバイル基地局の増産により、合計では前年を10%程度上回る生産となった。

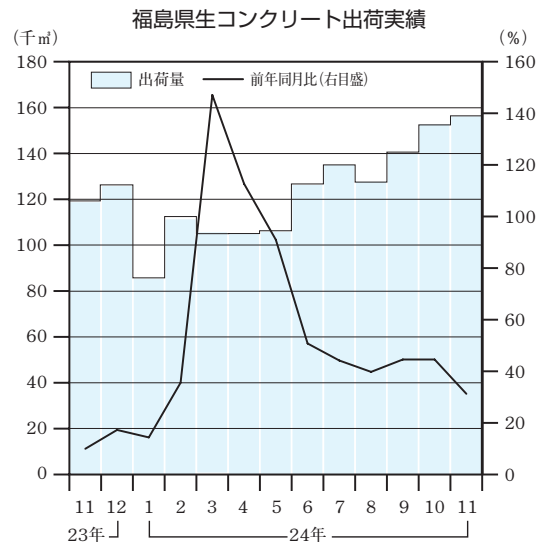
電子部品・デバイス 11月のLSI（大規模集積回路）の生産は、車載品およびAV・ゲーム機・家電、産業機器向けが低調な半導体需要や円高に加えて、日中関係の悪化による影響もあり、いずれも前年を下回った。

精密機械 11月の医療用内視鏡は、単価の高い欧米向け高付加価値新製品の受注量が増えたことなどから、合計では前年比で10%程度の増産となった。一方、デジタル一眼レフカメラ用レンズは、新製品のデジカメ向け増産により、全体でも前年を5%程度上回る生産となった。

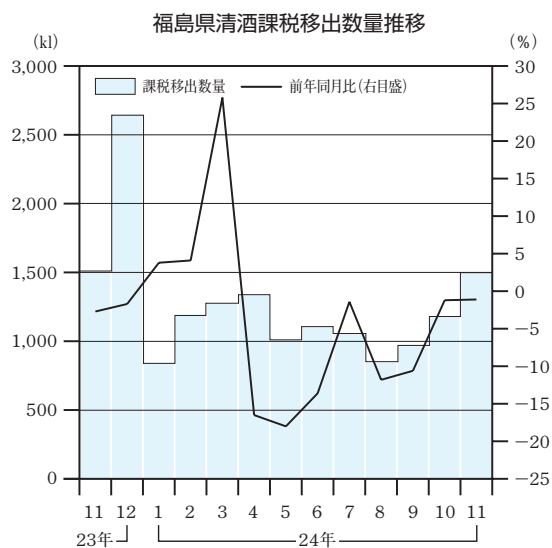
紙・紙加工品 11月のノーカーボン紙および感熱紙、インクジェット紙とも、輸入品との競合による影響などから、稼働日数が少なかった前年とほぼ同水準の生産となった。一方、ダンボールはほ



(資料：福島県企画調整部統計調査課)



(資料：福島県生コンクリート工業組合)



(資料：福島県酒造組合)

前年並みの生産を続けた。

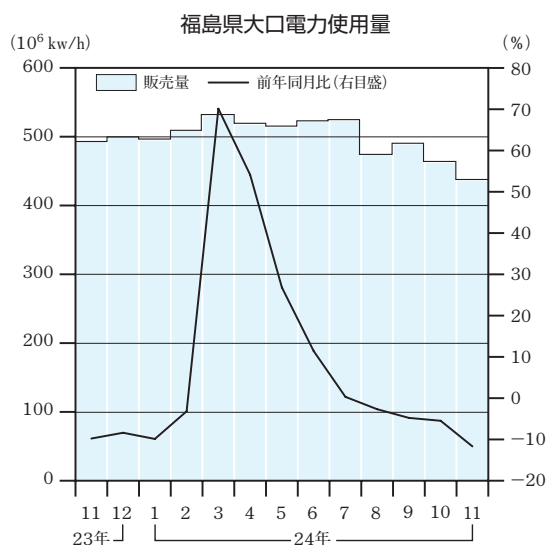
窯業・土石 11月の生コンクリート出荷量は、全体で157,009m³（前年同月比+31.3%）と16ヵ月連続で前年を上回った。民需・官公需別にみると、民需は、相双地区が火力発電所保安対策工事、県中地区が医療施設移転新築など、県北およびいわき地区を除いた4地区で前年を上回ったため、合計では前年比で+11.9%となった。また、官公需は、いわき地区の岸壁復旧工事や防潮堤工事、相双地区の海岸保全施設整備工事など、県中と会津を除いた4地区が前年を上回り、合計では同+52.3%となった。

清酒 11月の清酒移出数量は、1,506kl（前年同月比△1.1%）と8ヵ月連続で前年を下回った。酒類別では、特定名称酒（吟醸酒・純米酒・本醸造酒）が626kl（同+0.6%）と2ヵ月連続で前年を上回ったが、一般酒（特定名称酒以外の酒）が880kl（同△2.2%）と8ヵ月連続で前年を下回った。

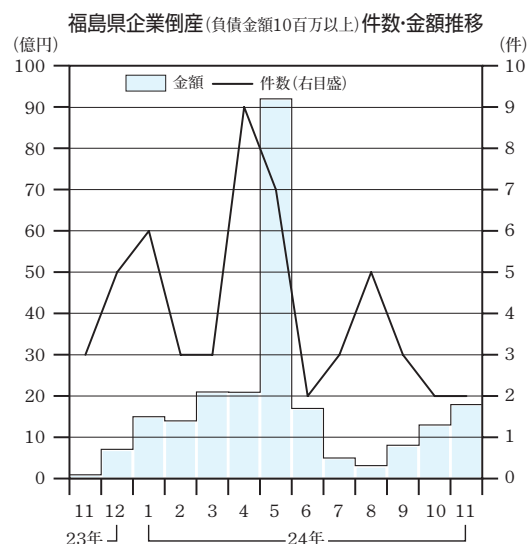
化合繊維物 11月の化合繊維物は、ナイロンが円高と欧米経済の低迷などにより、海外からの受注量が大きく減少しており、ポリエステルに生産をシフトしているものの、総体では前年並みの生産高となった。

ニット 11月のニットは、春夏物サンプルを中心とした生産となり、全体では前年並みの水準を確保した。

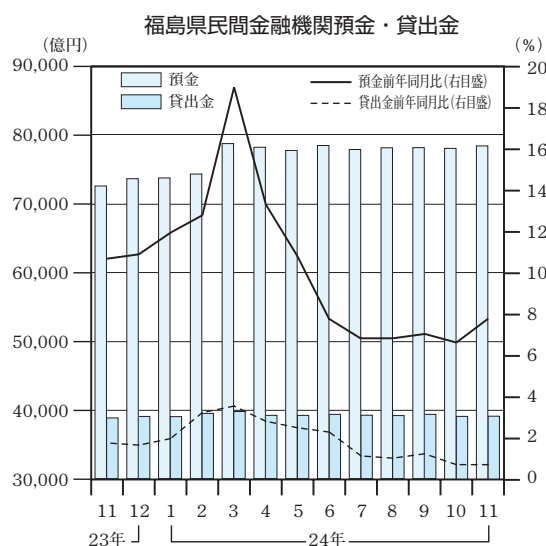
大口電力 11月の大口電力販売量は、437百万kw/h（前年同月比△11.3%）と4ヵ月連続で前年を下回った。大口主要販売先を業種別にみると、「非鉄金属」で78百万kw/h（前年同月比△28.7%）、「電気機械」で77百万kw/h（同△7.9%）、「輸送用機械」で53百万kw/h（同△10.2%）、「化学」で47百万kw/h（同△4.6%）、「一般機械」で23百万kw/h（同△8.9%）、「紙・パルプ」で15百万kw/h



(資料：東北電力福島支店)



(資料：帝国データバンク福島支店)



(資料：日本銀行福島支店)

(同△22.1%)となっている。

—— 企業倒産 ——

企業倒産 11月の企業倒産（負債金額10百万円以上）は、倒産件数が2件（前年同月比△33.3%）、負債総額が18億28百万円（同+2,628.4%）と件数が7ヵ月連続で前年を下回ったものの、負債総額は大型倒産の影響から6ヵ月ぶり前年を上回った。また、業種別でみると、製造業、卸売業が各1件となった。

—— 金融動向 ——

資金需給 県内金融機関（全国銀行、第二地銀、信用金庫、信用組合の県内店舗分）の11月末の預金残高は、7兆8,584億円（前年同月比+8.2%）と70ヵ月連続で前年を上回った。貸出金残高は、3兆9,219億円（同+1.0%）と18ヵ月連続で前年を上回った。

保証協会 11月の保証承諾は、件数が687件（前年同月比△42.3%）、保証金額が70億78百万円（同△55.8%）となった。また、11月末日現在の保証債務残高は、件数49,602件（同+2.0%）、金額4,833億55百万円（同0.0%）となった。一方、11月中の代位弁済は、件数が43件（同△28.3%）、金額が4億42百万円（同+4.1%）となった。

—— 雇用動向 ——

雇用動向 11月の新規求職申込件数（原数値）は8,233件（前年同月比△15.1%）と8ヵ月連続で減少となり、新規求人数（原数値）は14,786人（前年同月比+5.8%）と震災復旧関連により20ヵ月連続で前年を上回った。

11月の新規求人倍率は、季節調整値が1.59倍（前月比△0.02ポイント）、原数値が1.80倍（前年同月比+0.36ポイント）となった。また、11月の有効求人倍率は、季節調整値が1.10倍（前月比+0.07ポイント）、原数値が1.22倍（前年同月比+0.44ポイント）となり、原数値は32ヵ月連続で上昇した。

一方、11月の雇用保険受給者実人員は7,757人と引き続き高水準ながらも、震災により急増した昨年11月と比較すると△50.7%となった。

